

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070702602		
法人名	有限会社 星の里		
事業所名	グループホーム 星ヶ丘		
所在地	〒807-1264 福岡県北九州市八幡西区星ヶ丘3丁目5番21号 093-617-4808		
自己評価作成日	平成25年10月11日	評価結果確定日	平成25年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

関係者すべてに支えられながら今年で開設10年目のグループホームです。民家改造型のグループホームなので本当に家にいるような環境で生活していただけるような環境づくりを心掛けています。『家族と思い、思われる関係づくり』をメインの理念に掲げ、入居者さんが穏やかに生活していただける雰囲気づくりに努めています。6名定員という少人数の利点を最大限に活かし、一人ひとりにしっかりと寄り添った介護を実践しています。また外出支援にも力を入れており、入居者さんに大変喜ばれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

八幡西区郊外の閑静な住宅地の中に、1ユニット定員6名の、グループホーム「星ヶ丘」がある。周辺には、大型ショッピングモールやドラッグストア、ホームセンター、市民センター等があり、利便性の良いグループホームである。管理者(代表)の実家を改築し、10年前に開設した家庭的な創りのリビングルームで、利用者と職員が、仲良く元気なりハビリ体操が始まり、管理者は、町内会の組長として、地域の星まつりや、ふれ合い昼食会に利用者や職員と参加し、子ども110番に登録する等、活発な地域交流が始まっている。協力医療機関の往診と、看護師と介護職員による連携体制は、利用者の健康増進に繋げ、家族の安心に結びついている。また、管理者はグループホーム協議会の役員として奔走し、認知症の啓発と事業の発展のための地域貢献に取り組んでいる。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 093-582-0294		
訪問調査日	平成25年12月04日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1.私たちスタッフは、ここに入居された方みなさまを家族と思い、家族と思われるよう努めます。2.私たちスタッフはここに入居された方みなさまの暮らしを支える関係者すべてにととの道しるべとなり、困った時の方針を示していけるよう努めます。3.私たちスタッフは入居された方みなさまの自己選択・自己決定を尊重し、地域の中で自律した生活を支援することに努めます。という3つの基本理念の実現に向けて日々研鑽している。	定員6人の小人数の利点を生かし、グループホームが、よりグループホームであるための、ホーム独自の理念を掲げ、職員は、理念の意義を理解し、常に意識しながら利用者一人ひとりに合わせた、介護サービスの提供を目指している。また、職員は、悩んだり、迷ったりした時には、理念に戻り、初心に戻り、自分らしさを取り戻している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、今年は町内の組長を務めているほか、こども110番の家に登録している。また市民センターでの「ふれあい昼食会」にも毎月参加し、地域の中での生活を支援している。	管理者が生まれ育った実家を改築した、グループホームであるので、地域住民の温かい支援があり、管理者は、現在、町内会の組長をつとめている。利用者や職員は、地域のほし祭りや、ふれあい昼食会に参加し、子ども110番に登録をする等、地域の一員として貢献し交流の輪を広げている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	代表者が認知症介護指導者として活動しており、認知症ケアの啓発活動を行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価や実地指導があった場合は会議において報告を行っている。	会議は、2ヶ月毎に開催し、ホームの運営状況や取り組み、課題等を報告し、参加委員からは、意見や要望、質問や情報提供等があり、充実した会議である。会議は、現在までに45回開催し、参加委員との人間関係が構築され、何でも話し合える関係は、ホームの運営を推進していく会議として重要な会議になっている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域のグループホームの空き状況を提供している。	運営推進会議に、地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状や取り組みを理解して、情報やアドバイスを提供してもらい、連携を図っている。グループホーム協議会では、行政や地域包括支援センターと、情報交換や勉強会を通じ、役員として協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを実践し、研修も行っている。	外部の研修に参加した職員が、会議や勉強会の中で、身体拘束について報告し、職員は、スピーチロックを含めた拘束が、利用者には及ぼす影響について理解し、身体拘束をしないケアについて話し合い、利用者が、安心して暮らせる、介護サービスの提供に取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対して正しい知識を持つよう研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護サービスを利用している入居者がおり、研修も実施している。	現在該当者がいる為、職員は、成年後見制度や日常生活自立支援事業について理解し、資料やパンフレットを用意している。利用者や家族が制度を必要とする時には、申請手続きの方法や、関係機関への橋渡しが出来る体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を文書と口頭による十分な説明を行っている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望や苦情がある場合の窓口をスタッフにする事で、いつホームに来ても対応できるよう体制づくりをしている。また直接言えない場合も踏まえて公的の窓口を掲示している。	玄関に、外部と内部の苦情受付窓口を掲示し、利用者や家族が、自由に意見が言える環境を整備している。家族の面会や行事参加の時に、職員は、利用者や家族と話し合う機会をつくり、意見や要望を聴き取り、ホーム運営に反映させている。また、毎月請求書送付時に、利用者の健康状態や写真を同封している。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営者が管理者と介護職員を兼務して業務に当たっており、風通しのいい職場づくりに務めている。	毎月ミーティングを行い、職員の意見や要望、提案等を出してもらい、業務改善や、利用者の介護計画に反映させている。代表は、管理者で介護職も兼務しているため、職員との共通の話題が多く、管理者を含め、職員全員でチーム介護に取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数や雇用体制に合わせた給与を設定し、手当を支給している。また日頃からスタッフとのコミュニケーションを図っている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	ハローワークでの職員募集を行っている。子育て応援求人やトライアル雇用の制度を利用している。	ハローワークを通じて職員募集を行い、人柄や、やる気のある方を採用している。職員一人ひとりの事情を優先し、勤務体制や希望休等を、柔軟に取り組んでいる。また、職員の特技を活かし、資格取得のためのバックアップ体制も整い、働きやすい職場環境を目指している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	倫理マニュアルを作成し、職員への研修も行っている。	利用者の尊厳を守り、安心した暮らしの支援をするために、職員は、利用者のプライドや羞恥心に配慮し、優しい言葉かけや見守りで、ケアの実践に取り組んでいる。また、ホーム独自の倫理マニュアルを用意し、職員研修で使用し職員全員が理解している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTだけでなく、グループホーム協議会の研修に積極的に参加するよう務めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会での研修や、地域の事業者連絡会の交流会に参加を通じて、外部との交流を図っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式のシートを導入し、入居されるまでの生活歴などをケアに活かせるよう務めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式のシートを導入し、入居されるまでの生活歴などをケアに活かせるよう務めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった方に対して、ご本人や家族の要望に沿って、他のサービス事業者を紹介したりしている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者それぞれの出来る事を少しでも手伝ってもらい、役割を持った生活を支援している。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者それぞれの出来る事を少しでも手伝ってもらい、役割を持った生活を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	部屋にご家族の写真を飾ってもらったり、着慣れた洋服を持って来てもらったりしている。	アセスメントを活用し、利用者が今までに培った人や場所を把握し、利用者と共に寄り添いながら話題を提供し、話が弾み、利用者の行きたい所や会いたい人を把握し、家族と相談し実現に向けて取り組んでいる。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数の利点を活かし、一人ひとりにきめ細やかな支援を行うよう努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからも病院へのお見舞いや、施設への面会を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症介護指導者として『利用者本位』の実践に努めている。	職員は利用者との人間関係を作ることから始め、何でも話し合える信頼関係を築き、利用者の思いや意向を聴きとっている。意向表出の困難な利用者には、アセスメントを活用したり、昔から良く、利用者の事を知っているベテラン職員に聴く等して、利用者と共に寄り添い、表情や仕草から、利用者の思いに近づく努力をしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートを導入し、入居されるまでの生活歴などをケアに活かせるよう努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアチェック表や経過記録を使い、入居者の小さな変化にも気付けるよう努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングシートを活用し、それぞれに合った支援が出来るよう努めている。	利用者や家族の意見や要望を聴き取り、担当者会議で検討し、利用者一人ひとりに合わせた介護計画を定期的に作成している。また、利用者の状態変化に合わせ、家族と連絡を密に取りながら主治医と話し合い、介護計画の見直しを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアチェック表や経過記録を使い、入居者の小さな変化にも気付けるよう務めている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	何事も本人の意向を反映し、強制をしないよう支援している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民センターの行事への参加、近隣への買い物を通して、地域資源を有効に活用している。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ドクターとの情報交換を積極的に行い、入居者本人・ご家族の意見を反映するよう務めている。	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診を優先し、職員は、利用者の医療情報を持って受診同行をしている。提携医療機関による、毎週の往診は、利用者の心身の変化を見逃さず、早期発見、早期治療により、利用者の健康管理は、安心して任せられる体制が整っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケアチェック表・経過記録と看護記録を合わせて、本人の状態や受診についての相談を行っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との情報交換を密にし、本人の状態に合った処遇が確保できるよう務めている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	『看取りの指針』を定めている。	ターミナルケアについて、契約時に家族と話し合い、ホームで出来る支援について理解を得ている。利用者の重度化に伴い、段階的に家族と主治医も交えて話し合い、今後の方針を確認し、職員間で共有し、出来るだけ利用者が、ホームで暮らせるよう支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、緊急連絡網をわかりやすい場所に掲示している。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時マニュアルを作成しスタッフへの周知を図っている。	非常災害を想定した避難訓練を実施し、避難経路、非常口、避難場所を確認し、利用者が、安全に避難出来るように訓練している。また、災害対策マニュアルを作成し、職員全員に周知し、いざという時に備えている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お互いが家族と思えるような声掛けを行っている。	職員は、利用者の尊厳を守りながら、家族のような関係を築き、利用者のプライドや羞恥心に配慮した、優しい声掛けや見守りで、利用者の人格を尊重した介護サービスに取り組んでいる。また、利用者の個人情報の記録の保管や、職員の守秘義務についても、管理者から常に説明があり、周知徹底が図られている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話を通して本人の思いや希望を把握するように務めている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフには常に「業務優先」にならないよう指導を徹底している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服をスタッフと共に行い、整容も毎日行っている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手紙は自由に出してもらっているが、電話は事務所にしかない為、スタッフに声を掛けて使用してもらおうようお願いしている。	食事は、利用者の楽しみであり、利用者の残存能力に合わせ、テーブル拭きや後片付け、食器拭き等を手伝ってもらい、彩りや味付け、盛り付けに工夫し、愛情たっぷりの美味しい料理は、利用者の食欲増進に繋げている。また、外食に出かけ、利用者の気分転換や、生きがいに繋がる食事の支援になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の摂取量に合わせて食事を調整している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週の訪問歯科と、毎食後の口腔ケアを行っている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを把握し、必要に応じてトイレ誘導を支援している。	トイレでの排泄を基本とし、職員は、利用者の排泄パターンを把握し、早めの声掛けやトイレ誘導で、失敗の少ないトイレでの排泄の支援に取り組んでいる。また、体操や生活リハビリ機能で、下肢筋力を鍛え、自力でトイレに行けるように訓練し、利用者の自信回復と、オムツ使用軽減に取り組んでいる。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を提供したり、運動を行ってもらうよう支援している。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回の入浴を行い、本人に合わせてゆっくり入浴しているよう務めている。	入浴は、利用者の希望を聞きながら、週2～3回の楽しい入浴になるように工夫している。湯船にゆっくりつかり、見守りの職員と、本音で話せる貴重な時間と捉え大切にしている。また、入浴拒否の利用者には、時間を代えたり、タイミングを見て声掛けする等、無理強いをせず、利用者の自己決定を優先している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を決めず、本人が休みたい時に就寝できるよう支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「薬の説明書」をいつでも見れる場所に置き、薬の変更時には口頭と文書での申し送りを徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	少人数の利点を活かし、一人ひとりにきめ細やかな支援を行うよう務めている。		
51	2.1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援を積極的に行うとともに、ホーム前のベンチを有効に利用し、日光に当たる時間を設けている。	天気の良い日は、日課の散歩や、大型ショッピングセンター、外食、市民センターの昼食会に出かけ、利用者の気分転換や、生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいる。また、ホーム前のベンチに座り、利用者同士の会話に弾み、楽しい日光浴になっている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の管理は行っていない。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は自由に出してもらっているが、電話は事務所にしかない為、スタッフに声を掛けて使用してもらおうようお願いしている。		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改造型利点を活かして、安心感を与えられる空間を提供している。	代表の実家を改造した建物は、家庭的で、利用者が一日の大半を過ごすリビングルームは、利用者と職員の笑い声が聞こえ、気の合う利用者とは話したり、作品作りや手芸に熱中し、それぞれの利用者が、生きがいを持って過ごし、穏やかで居心地の良い共用空間である。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	民家改造型利点を活かして、安心感を与えられる空間を提供している。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や写真を持ち込んでもらえるようご家族に声を掛けている。	利用者の使い慣れた、馴染みの家具やテレビ、お気に入りの小物や家族の写真等を持ち込んでもらい、自宅と違和感を感じない雰囲気をつくり、居心地の良い居室である。また、室内は整理整頓がいきわたり、清潔感のある生活空間である。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合った支援を行っている。		